分　担　研　究　概　要

東京都立北療育園
廿　楽　重　信

我々の研究班は,『重複障害児の家庭療育に関する研究』という主題のもと，在宅障害児の対象を，最近，増加傾向をしめし厚生行政対策として考慮せねばならなくなってきている重複障害脳性麻痺児と重症心身障害児（重症児と略す）の二種類に焦点をあて研究している。

又その対象児を(I)肢体不自由児施設における母子入園児及び外来通園児，(II)母子通園施設通園児，(III)在宅重症児の三種に分けてその実態と問題点を調査し，良い在宅療育法を見出すべく研究している。

以下本年の研究実績の概要について論じてみたい。

〔I〕肢体不自由児施設に通園する在宅障害児の研究として，聖ヨゼフ整肢園の家森百合子他は(A)『**Vojta 法による在宅訓練の実態と望ましい援助施策**』と題し研究した。その結果，外来に来園し療育を受ける子供の母親は心理的負担が非常に重く，通園に要する時間と経済的負担がかなりある事が知れ，来園に要する交通費の援助施策と地域での在宅療育施設の充実の必要性にふれている。又，Vojta 法の実践を推進する為には，在宅事情に対する援助の重要性が望まれることものべている。

次に，北海道立札幌肢体不自由児総合療育センターの高橋武他は，(B)『**重複障害児の家庭療育に関する研究**』と題し，本年は家庭療育について学習した母親の態度が子供にどのような発達の方向を開いてゆくかを母子入園経験児の親と，外来通園のみの親の子供に対する療育意識を比較検討した。その結果，親の療育態度傾向が，子供の全体的発達に微妙かつ鮮明に影響している事が明らかになった。特に８週間の母子入園を経験した母親の方が，外来通園のみで療育指導を受けた親より子供に対する心構えなど大変良いものがあるとし，在宅障害児療育の一方法として母子入園の重要性を説いている。

〔II〕母子通園施設に来園する在宅障害児療育として都立北療育園の廿楽重信他は，(A)『**最近の都立肢体不自由児四通園施設の実態から都における在宅障害児療育のあり方を考える**』と題し，昭和56年４月１日現在の都立四通園の実態をみた。重症児が半数以上である。日常生活動作（Ａ・Ｄ・Ｌ）全介助が，調査対象児の約$\frac{2}{3}$以上を占める。通園に要する時間は，一時間以内が84.７％である第16項目の結果をしめている。この結果にもとづいて公立とりわけ都立の通園施設は，医療的設備がある事は欠かせない。又職場として医師とりわけ小児科医とナースの常勤と Paramedical Stuff のかなりの常勤が必要であることを強調している。

次に，国立下志津病院の山形恵子他は，(B)『**ＣＰ児及び重症児の療育指導，とりわけ通園指導とその効果について**』と題し，通園療育を受けた子供が就学したり施設に入所すると重症児程乳児的取扱いに戻る傾向があり，運動機能も低下が著しい事が知れた。その結果重症児程，就学後も定期的な指導，援助を医療設備のある施設が担当し，療育を続ける事の必要性を説いている。つまり運動機能障害児は発見された以後，医療設備のある施設において一生療育指導をうける重要性を強調した研究であるといえる。

(Ⅲ) 重症児の在宅障害療育のあり方としてむらさき愛育園の中村博志他は，(A)『**重症児における訪問看護，巡回相談の役割り（その2）**』と題し，重症児の在宅療育を継続させることを阻害させる母子の研究をした。その結果，患児をとりまく近親者の考え方と，療育に伴う諸問題が重要である事を指摘している。

次に愛知県心身障害者コロニー，こばと学園の岡田喜篤は，(B)『**名古屋市における在宅重症児の実態と処遇について**』と題し，年齢体重，健康状態，疾病の有無，入所希望等について研究した。その結果，在宅療育と入所療育のメリットについて触れ，Case by Case として処理されるべきであると結んでいる。

以上，本年の研究に共通していえることは，重複障害ＣＰ児にせよ，重症児にせよ，早期に発見したら医療設備とスタッフのととのった場所で一生療育の指導とその援助をすべきこと。その為には，親の療育に対する理解度を深める指導と，経済的援助やホームヘルパーの援助等，在宅障害児が安心して療育されうる環境造りが重要であることが知れたといえる。

来年度は，本研究の最終年度になるので，55年，56年の両年度結果から，どのような行政的組織ないしは施策を考えていったらよいかについてふれてみたいと思っている。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

我々の研究班は,『重複障害児の家庭療育に関する研究』という主題のもと,在宅障害児の対象を,最近,増加傾向をしめし厚生行政対策として考慮せねばならなくなってきている重複障害脳性麻痺児と重症心身障害児(重症児と略す)の二種類に焦点をあて研究している。又その対象児を(Ⅰ)肢体不自由児施設における母子入園児及び外来通園児,(Ⅱ)母子通園施設通園児,(Ⅲ)在宅重症児の三種に分けてその実態と問題点を調査し,良い在宅療育法を見出すべく研究している。

以下本年の研究実績の概要について論じてみたい。